

# 1. 評価結果概要表

評価確定日平成21年10月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2274202081
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティ大空
所在地 (電話番号)	静岡市葵区古庄 3-23-1 ( 054-263-7101 )
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年9月5日

## 【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人/ 非常勤 4 人/ 常勤換算	16 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り 2階建ての1階～2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	18,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 65,000円 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 含む 円
	または1日当たり		1,000円

### (4) 利用者の概要(平成21年8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.9 歳	最低 60 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	静岡済生会総合病院 ・ 望月クリニック ・ 近藤歯科医院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に畑が点在し、のどかでありながら社会との繋がりも感じられ、グループホームとしては最良の環境に立地するホームである。「地域に根差し共にふれあう関係をつくります」の理念のままに、理解ある地域の中で利用者の安心な生活が築かれている。管理者の交代から一年余りが経過し、「利用者本位」を信条とする管理者の思いは職員にも浸透し、積極的な外部との折衝や関係作りにより、利用者の安全や楽しみを広げている。すべての職員が学んでいる介護の基本を意識して、初心に帰る取り組みでさらにホームの質の向上が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回指摘された「カロリーの把握」は、法人の管理栄養士からのモデルメニューを参考にして改善されていた。「同業者との交流」については、圏域ケア会議がスタートし、その発展が楽しみである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価票作成には全員で取り組み、ホーム長・計画作成担当者がまとめた。1F・2Fユニットの取り組み状況について、多くの項目で異なった観察が見られ、特性に合わせた取り組み姿勢が現れていた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議が提唱されてから2ヶ月に1回着実に開催されている。市・地域包括支援センター・自治会長・民生委員・家族代表・ホーム管理者等が参加し、町内の取り決め等を理解しながら良好な関係が進化している。会議では通常の状況や予定の報告と共に、新たな「学校との触れ合いの場づくり」に知恵をめぐらせている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、ご意見箱も設置されて何時でも耳を傾ける態勢にある。苦情より相談が多いが、それらをサービス担当者会議で検討し、運営に反映させている。毎月大空の「ホームだより」でホームの写真入り行事報告やホーム長からのコメント等が在り、担当職員から工夫を凝らした利用者個々の状況や預かり金についての報告がされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣に支えられているという認識があり、防災訓練や町内の掃除等にも参加している。定期的にボランティアの人形劇・腹話術・コーラス・公民館の歌や踊りも行われている。今度の敬老会はホームで行い、地域の方も招いて更に交流を深めるよう努力している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年5月から新ホーム長の下に、地域密着型に相応しく「地域に根差し共にふれあう関係をつくります」という独自の新しい理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所・玄関・食堂に掲示され、共有して日々の介護に活かすよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に支えられているという認識があり、防災訓練や町内の掃除等にも参加している。定期的にボランティアの人形劇・腹話術・コーラス・公民館の歌や踊りも行われている。今度の敬老会はホームで行い、地域の方も招いて更に交流を深めるよう努力している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義をよく理解しており、指摘事項についてはユニット会議で検討し、改善に取り組んだ。今回の自己評価票作成には全員で取り組み、ホーム長・計画作成担当者がまとめた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が提唱されてから2ヶ月に1回着実に開催されている。市・地域包括支援センター・自治会長・民生委員・家族代表・ホーム管理者等が参加し、町内の取り決め等を理解しながら良好な関係が進化している。会議では通常の状況や予定の報告と共に、新たな「学校との触れ合いの場づくり」に知恵をめぐらせている。		

静岡県 グループホーム ケアクオリティ大空

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の利用者も多く、必ず窓口に足を運び、報告・連絡・相談を密に行っている。最近運営推進会議とは別に「圏域ケア会議」がスタートし、地域の包括・介護施設・ケアマネージャー・民生委員等の多くの参加者を得て、地域ぐるみでサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月大空の「ホームだより」でホームの写真入り行事報告やホーム長からのコメント等がある。担当職員からは家族からの要望で読みにくい家族には字を大きくするなどの工夫を凝らした、利用者個々の状況や預かり金についての報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、ご意見箱も設置されて何時でも耳を傾ける態勢にある。苦情より相談が多いが、それらをサービス担当者会議で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による介護が受けられるよう、その都度職員の悩みを聞いたり、ホーム独自の職員の自己評価表にある自己評価や目標・改善意見等を基に、ホーム長との個人面談を行い、職員の安定に注力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の社内研修体系が整っている。ホーム内部では訪問看護師の協力を得て、糖尿病・腎不全・健康管理等の研修を行っている。外部研修は虐待・リスクマネジメント等その都度必要なものに参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近始まった「圏域ケア会議」に参加し、同業者・地域の民生委員等との交流が始まり、その発展が楽しみである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメントシートから生活歴を把握すると共に、本人や家族と面談し、思いや意向・現状の姿を観察し、徐々に馴染みながらホームの生活が始めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験豊富な利用者の得意な分野を、アセスメントの生活歴や日常の触れ合いの中から探り出し、それらを活かし、学び、支えあひながら苦楽を共にしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は利用者本位の介護を常に職員に説いており、ユニットにおいては職場に入ったら必ず9名の利用者に声をかけ、思いを汲み取るよう努めている。外出や買い物は利用者の新たな発見に繋がることもあり、職員は利用者に関心を持って接している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者毎に担当職員がおり、介護計画作成時には利用者の生活歴や好むものを予め探ってカンファレンスに臨んでいる。家族はサービス担当者会議に出席して希望や思いを伝え、共に話し合っている。計画書はカードックス方式により、計画が日々の支援に生かされるよう図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月担当職員がモニタリングを行っており、変化や問題が生じた場合にはユニット会議で話し合い、計画の見直しをしている。特に変化が見られない場合にも「継続」として家族に確認していただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や家族が付き添えない場合の通院介助、突然の外出・外泊等への対応も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の受診、ホーム主治医の受診は利用者や家族の希望どおりとしている。ホームの主治医は基本的な健康管理のため週2回往診しており、訪問看護師には看護方法の指導や利用者の看護記録を作成してもらうなど、利用者の適切な医療が受けられるよう連携して柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針や同意書は用意されている。医療的に対応が可能であれば、本人や家族の意向を基に支援の方向も考慮しており、状況を職員間で検討して結論を出す方針である。職員にはアンケートで意見の確認をしている。	○	社会情勢からも今後看取りはグループホームにとり避けて通ることの出来ない問題になることが予想される。職員が不安なく介護に従事できるよう、看取りを視野に入れた勉強会の開催が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉遣い等について、会議やカンファレンスの際に話しあっている。利用者のプライドを損ねるような対応は見られず、介護経過の記録も丁寧な言葉で綴られていた。記録類は事務所のロッカーに適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の願う支援がすべて可能ではないが、職員は出来るだけ近づけるよう努めており、計画どおりの進捗が出来ないときには次回へ持ち越すことを良しとしている。働くことが大好きな利用者には終日仕事を作っているが、合間には職員と一息入れる時間を設けて、思いに沿った暮らしの実現に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員のこしらえた料理を利用者は「この料理は美味しいんだよ」と勧めてくれる。食事中には、若い人もかなわないような機知に富んだ会話の応酬で楽しい食卓であった。下膳やテーブル拭き等利用者は出来ることを行っており、時には焼きそばなど利用者が調理人を務めることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気持ちよく入浴していただけるよう、入浴剤を使用したりタイミング良い声掛けに努めている。お風呂嫌いな利用者が人形が好きなことから小さな人形を風呂に浮かべて入浴を促すなど職員の工夫や配慮が感じられる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性利用者が皿洗いや洗濯物たたみを励む姿に女性利用者も刺激されてゴミ袋を作ったり、ごみを出したりとそれぞれが役割を果たしている。1・2階合同のコーラスも職員の巧妙なリードで楽しく賑やかであった。工夫して作られた図書室の額に飾られた習字は、利用者の手によるものである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出には重きを置いて、天候が良ければ近所の神社等に出掛けている。周辺の公園へドライブに行ったり、花見・遠足や時には外食等行事外出も盛んである。畑での野菜や花作り等戸外活動支援もある。また、緑を間近にデッキでの外気浴も自由に楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者は自由に外へ出るため、最寄の駅の官舎へ不明時の協力を依頼したり、職員が声掛けと一緒に歩いたりすることで日中は絶対に鍵をかけないケアに努めている。また居室に入った利用者が自室入口を施錠することもあるが、安全をうかがいながらも本人の希望を尊重している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を消防署の協力の下に実施しており、地域の防災訓練にも参加している。大家さんや民生委員が隣接しているため非常時の協力には快諾を得ているが、他の住民への災害時の協力依頼は今後の課題である。	○	運営推進会議等を活用し地域住民の協力体制を確保されることを願いたい。災害時・非常時にホームがどのような状態になるかをイメージした避難訓練を提案したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部から栄養士が作成したモデルメニューが配布され、それを基にした献立によりおおよその摂取カロリーや塩分を把握しており、毎月の体重測定と合わせて栄養状態を管理している。糖尿病利用者には病院の栄養指導を受け、甘味料や飲み物に配慮している。水分摂取も小まめな声かけで確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関ホールは季節の飾り付けがされて、通る人の目を楽しませてくれる。居間にはデッキが続き、畑の緑が鮮やかである。午前の眩しい日光は、カーテンでさえぎられていた。二階ホールは家族から贈られた本を並べソファを置いて図書室として活用され、一階からも利用者が訪れて読書を楽しんでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた筆筒や、お孫さんからプレゼントされたぬいぐるみ等大切な品を置き、利用者のこれまでの習慣を継続できるよう畳を敷いた居室も見られる。利用者の事情により馴染みのものが見当たらない居室もあるが、ホームでのスナップ写真を壁に飾って「自分の部屋」を表現する配慮が見られた。		